

「大切な森林を守ろう」フォーラム2012を開催しました。

阪急阪神交通社グループでは、社会貢献委員会活動の一環として昨年の大阪開催に引き続き第3回目の「大切な森林を守ろう」フォーラム2012を11月23日(金・祝)東京・日本青年館 中ホールにて開催しました。当日は雨天にもかかわらず、121名様にご来場いただきました。



【第一部】では、作家C. W. ニコル氏に「心に木を植える」と題してご講演いただきました。

ニコル氏は1980年から長野県にお住まいで、それまで世界各地で環境保全活動をされ、また探検家としても有名です。1984年からは長野県黒姫にて里山を購入して、自ら森の再生活動に着手され、2002年には「アフアの森」財団を設立されました。現在は、震災後の宮城県東松島で「アフアの森 震災復興プロジェクト」を立上げ精力的に活動されています。

- 日本の国土の67%は森林です。また、日本には北に流氷があり、南にサンゴ礁がある。日本の生物の多様性はヨーロッパ全体よりも豊かである。生物の多様性があるということは可能性です。これを活かさないとだめ。
- 美しい自然がバブルの時代に破壊されましたが、多くの人はわかっていなかった。大事な水源地が荒らされ、山の中で仕事している人を削減した。その時、自分に出来ることがあると思った。荒れた森を買って、小さくていいから美しい森を作ろう。
- 長年手入れされず、ゴミでいっぱいだった杉だらけの森を林野庁と手を組んで間伐し始めました。掃除して水路も作り、地下水が流れるようになり、今は小さな岩魚が戻りました。だから、森は水の母です。日本はこれだけの素晴らしい山と森を持っているから、いい水がある。日本は水が一番の資源だと思います。
- 昨年、震災の後で自分に何が出来るだろうかと考えた。家族も家も失った人たちには、瓦礫だらけの景色しかない。美しい森に入ったら癒しになると思い、東北の色んな所に招待状を出した。そして、東松島から62名のお年寄りや子どもたちを招待し3日間黒姫で過ごしてもらった。
- その方々から、家が流され高台の暗い森に移住しないとイケないという話を聞いた。そこを明るい森、楽しい森にするためのアドバイスの要請を受け、景色を活かし森とマッチした近代的な木造の建物を作る復興プロジェクトを現在進めています。



自ら実践的な活動を行ってきたニコル氏の講演は、説得力があり大変興味深く、また、ユーモアも交えた講演は有意義なものでした。

【第二部】では、「森の再生から復興へ」として、C. W. ニコル氏と有識者4名でパネルディスカッションを行いました。

- この度の震災被害による人工物は一から作り直さなければならないが、自然には再生能力があり、既に震災直後から再生が始まっている。
- 森林の荒廃は、木材価格の低迷・過疎化・高齢化などの要因が重なり、従事者が減少したことによる。木材の活用システムの再構築が必要である。
- 震災以降、自然エネルギー利用に関心が高まっている。木材利用促進の「薪まきネット・薪バンク」プロジェクトは、森林再生循環システムとして、都市の住民と山村の生産者を結びつけることで、山を元気にする。など、示唆に富んだ意見が交わされました。

